

さんむ景観通信 第6号

平成27年1月発行

発行元：山武市都市整備課

問い合わせ先：[Tel] 0475-80-1191 [E-mail] toshiseibi@city.sammu.lg.jp



さんむ景観通信では、市民の皆様にご覧いただき、『景観』への意識をより高めていただくため、景観に関する様々な取り組みやイベントについて発信してまいりました。今回のさんむ景観通信第6号でも、景観まちづくり市民懇談会である「景観ワイワイ広場」をはじめ、その他景観に関する情報についてお伝えします！

景観ワイワイ広場を開催しています！

山武市では、平成24年度から山武市の景観づくりについて自由にワイワイ話し合ったり、実際に目で見て体験してもらう場として、これまでに計6回『景観ワイワイ広場』を開催してきました。市内の方はもちろん市外の方にもご参加いただき、毎回様々なご意見を頂いています。今後の開催内容については、随時お知らせいたしますので、是非ご参加ください。

■第6回景観ワイワイ広場開催概要■

これまでの景観ワイワイ広場では、ワークショップなどの意見交換や、セミナー、パネルディスカッションなど、ほとんどが室内で開催されてきましたが、第6回景観ワイワイ広場は、実際に外に出て、山武市の丘陵地の景観の現状を知ってもらうことを目的に開催いたしました。当日はあららぎ館に集合して車で移動し、実際に山武の森を歩いたり、木材の集積所を見学しました。



第6回景観ワイワイ広場 ～山武の森を知ろう～

- ◆開催日：平成26年12月13日(土)
- ◆開催時間：9時00分～12時00分
- ◆開催場所：山武市植草地区の山林(ほか)
- ◆参加者：10名
- ◆内容：
 - (1) 森林散策
 - ・大径木の山林
 - ・若木の山林
 - (2) 活動紹介
 - ・NPO法人元気森守隊
 - (3) 懇談会

山武の森を知ろうマップ
(当日回った場所)



■第6回景観ワイワイ広場の様子■



林業家の猪野さんに、サンプスギの森を案内していただきました。

山武市の良好な景観を守り、創り、そして将来へと紡いでいくためには、散策をしたり、高台からの眺めなどを楽しみながら、まずは一人ひとりが普段見慣れている風景を『景観』として意識することが重要です。

今回の景観ワイワイ広場では、景観を身近に感じていただこうと、実際に山林の中を歩いたり、集積所を見学しながら説明を聞いて、山武の森の厳しい現状を知っていただきました。参加者からは「こんなに厳しい現状だとは知らなかった」という声も聞け、皆さんそれぞれが森を守り、育てる取り組みの大切さ、自然の魅力を再認識して頂けたと思います。

次のページでは、林業家の猪野さんと NPO 法人元気森守隊の白江さんのお話や、参加者の皆様のご意見の概要を紹介いたします。



スギの間から差し込む日の光が幻想的でした。



山武産業にある木材の集積所



山林の中でご説明していただきました。



※樹齢 200 年程の大径木の幹周りは大人ふたりが手を伸ばしても届かないほどです。



手入れの行き届いた山林



山林の中に植林された若木

林業経営の苦悩

私たちは植林を通じて木を育て、建材を作っています。近年の建材の需要はほとんどなく、山林経営は非常に厳しい状況にありますが、木を育て、大径木のある山林にしていくことを目的としています。

目の前※の大径木は樹齢 200 年程だと思います。200 年という、山主の一代は 30 年程なので、単純計算で七代続いていることとなります。山林経営がいかに長期間を要するかということをご理解いただきたいと思います。

サンプスギは傷がでやすく、^{みみずくさびしょう} 腐朽病が悩ましい問題で、サンプスギの価値を下げる大きな要因となっています。しかし、この辺りの木では良く手入れをしているからか、比較的腐朽病の木は見られません。

Q.木を伐採する目安はあるのでしょうか？

A.家を建てたいからこういう柱が欲しいなどの需要に応じて伐採しています。昔は柱木の他に内装や建具用にも木が求められていましたが、最近は無に近いです。

山武の森の厳しい現状

木の管理は、植えてから 10 年程は年 2 回程度草を刈らないと蔓草に負けてしまいます。

木を植える際は、密度が濃すぎると枝が全部折れてしまい、植えた木が共倒れになってしまいます。将来につないでいくためには間伐をしなければなりません。

建材としてのサンプスギは、木目に赤みがかっていて非常にきれいだと大工さんに喜ばれています。建具にもサンプスギは良いと言われていますが、近年木を使おうという話が少なく、私たちは非常に困っています。

切った間伐材は、NPO 法人元気森守隊で 1 トンあたり 3,000~4,000 円で買い取ってもらっています。伐採や運搬費用を考えると、車の燃料代程度にしかありません。

建築材として処分できない限り山は再生しません。環境の観点から、山の緑は大事であることは皆さんも承知していると思いますし、私もその認識をもっていますが、それだけでは山を維持することはできません。

木の利用について、ペレットストーブの燃料として利用を始め、これまでも取り組んできていますが、まだ先が開けない状況にあります。

<林業家：猪野さん>



木材の集積所を見学しました。



木質ペレットを燃料とするペレットストーブを紹介していただきました。

サンプスギの有効活用に向けた取り組み

NPO 法人元気森守隊で進めている「木の駅プロジェクト」は、市内の山林をきれいにしたいという想いから始めた事業になります。皆さんの目の前に積み上げられている間伐材は、木の駅プロジェクトの会員（40 名程）の皆さんが山に入って持ってきていただいたものになります。こちらで状態に応じて 1 トンあたり 3,000 円~4,000 円で買い取らせていただいています。なお、お支払する金額のうち、1000 円分は、地域商品券としてお渡しし、山武市内の商業にもお金が回っていただければ良いと考えています。

腐朽病にかかっているサンプスギの使用用途はありませんが、間伐材の有効活用に向けて、バイオマス発電を視野に入れた取り組みを進めています。市民の皆様のご協力があることでできることだと思いますので、関心がありましたら是非参加いただければと思います。

<NPO 法人元気森守隊：白江さん>



<山林散策及び間伐材集積所見学後の意見交換の概要>

- ・山の中を歩き、空気の美味しい山武の魅力を認識した。そういう魅力を含めた景観を維持継続していけるよう、微力ながら力になれることがあればと思った。
- ・森を歩かせてもらい、管理されている方が大変だということを知った。今後市の都市整備に関する計画と景観とのマッチングの中で、負の遺産を言われているものをどう利用していくかを今後考えていくのが良いと思う。
- ・今日は素晴らしいサンプスギを見せていただいたが、他にも植草地区にある長屋門や棚田などの景観と併せて、観光の目玉にしていけたらと思う。また、雨坪地区は歴史的にも杉の植林の伝統がある。歴史の観点からも景観を見て行くと良い。
- ・市内の歴史に関する説明をしていくことで、良い観光コースになると思う。
- ・提案として、フォトコンテストの入賞作品をカレンダーとして活用してはどうか。市民の方に知ってもらうことが一番重要だと思う。
- ・サンプスギの森林の景観の保全が需要だと非常に感じた。実際に見て、定期的な間伐などの維持管理が山主の方の負担になっている。サンプスギがもっと利用されるよう、行政でも PR して、山主の方の負担を少なくしながら景観を保全していくことが今後の課題だと思う。
- ・山主の方の現状も厳しいという話を聞き、もっとサンプスギを利用できないものかと痛切に感じた。
- ・持続可能な社会の実現には経済活動が必要不可欠であると習ったが、今回山主の方の話を聞いて改めて実感した。
- ・今日の話聞いてとても大きな問題だと思った。こうして集まって話を聞いているだけでは解決できないと思う。など

